



# 東谷中学校だより

令和元年度  
学力特集号

発行日：令和元年10月16日  
発行：北九州市立東谷中学校  
発行者：校長 樋口 弘樹  
ホームページアドレス  
<http://www.kita9.ed.jp/higashitani-j/>

## 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

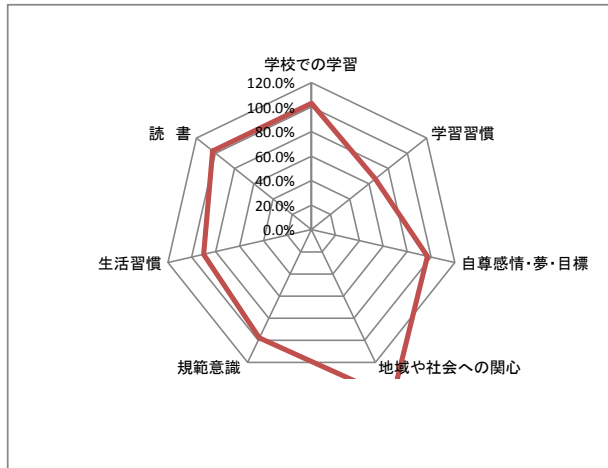
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全体的に全国平均を下回っている。文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、書き手の目的や意図を考えたりすることが苦手であり、自らの考えをまとめていく点に課題が見られる。	下回っている
数学	基本的な問題も応用的な考え方を必要とする問題も全国平均や県平均を下回っていた。	下回っている
英語	全体的に全国平均を下回っている。読むことに関しては簡単な文を読むことはできているが、選択肢が単語や絵ではなく、文が長く難しくなると、それをまた理解し、正答に導くことができず、正答率が下がる。書くことに関しては、一番結果が振るわず、ある程度与えられた条件や空白の欄を想像して書くという問題には意欲的に書こうとしているが、全体的に自分の考えを書くことが苦手と思われる。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



**質問紙調査の結果分析**

- 学校での学習についての質問には全国平均を上回っているが、家庭での学習習慣(計画的な学習、学習時間)についての質問には全国平均よりも下回っている結果だったので学習内容の定着にかなり影響していると思われる。
- 生活習慣に関して「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に対して、肯定的な回答が県や全国の平均よりも低いので生活のリズムが確立できていない生徒の割合が多いようである。
- 自尊感情の「自分には良いところがありますか」「将来の夢や希望を持っていますか」という質問に対しての肯定的な回答は全国平均より多少低かったが、「人の役に立つ人間になりたいですか」という質問に対しての肯定的な回答は100%であり、社会貢献への意欲は高いと思われる。
- 地域の行事への参加に対する肯定的な回答は全国平均よりもかなり高かった。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎学力向上のための特設時間の実施(東谷タイム、全職員)
  - ・毎朝、8:30からの10分間 小中連携教員は、活動の補助を行う。アシストシートなどの活用 1, 2年生希望者を対象とした放課後の勉強会を火曜日の17:00まで実施する。(数・英 当番制全職員、各学年毎に数学・英語を中心として、基礎的・基本的な学習内容に取り組む)・ひまわり学習塾(3年生希望者対象、月・水曜日)の実施
- ◎アシストシート、活用力を高めるワークの活用(5教科の職員、担任)・単元末に活用ワーク等を位置付け、活用する。 長期休業日などに冊子にして活用する。
- ◎学力向上のための「毎日の課題」(家庭学習向け)の実施(5教科の職員、担任)・5教科の基礎・基本の定着を図る問題を配布し、東谷ノートにはって提出させる。
- ◎学力向上に関する授業改善研修の実施
  - ・モデル授業を実施し、取り組み内容の確認を行い、課題を話し合い、分かる授業を目指していく。(全職員)
  - ・数・英・体の授業にはT2の教員が入り、個人指導や補助をする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化を図る。
  - ・東谷ノートを活用して、家庭学習の状況を把握するとともに、家庭学習の習慣を定着させる。
  - ・スマートフォン、ゲーム、テレビなどの適切な使用の仕方や付き合い方を学校便りや学級通信、保健便りなどで知らせる。生活習慣につなげることができるようにする。
  - ・自主学習ページを活用して、自ら課題を設定・解決する能力を育成する。 毎日、5教科の問題を出題して基礎学力の定着を図る。
  - ・東谷ノートの活用により、家庭と学校をつなぎ、保護者に家庭学習の重要性について理解を求める。
- 小学校と連携し、家庭学習の時間を小学校1年生から段階的に増やしていく。
- また、春休みの課題を作成し、実施することで、学習の遅れなどを個別に把握し、きめ細かな指導体制の確立と中1ギャップへの対応を行う。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知する。
- 学校だよりなどで家庭と連携を強化して、協力体制を整える。